キラリ話題の人

小竹　利美（としみ）さん

・３６年間栃木県公立学校勤務
・「佐野藍復活プロジェクト」に参加
・藍師（藍染の染料となる「すくも」の生産者）

▲すくもの天地返し

▲藍草の畑にて

藍

青は藍より出でて藍より青し

色は別名「ジャパンブルー」とも呼ばれ、日本に古くからある浴衣やのれんに使用されている色です。１００年以上も前に絶えてしまった佐野藍を復活させようと「佐野藍プロジェクト」が始まり、小竹さんを始めとした藍農家が藍草を栽培し、すくもを作り、佐野藍の復活を果たしました。

佐野市（旧安蘇郡）の「藍」の歴史は古く、同業組合もありました。田中正造も政治活動の資金を稼ぐためにすくもを生産していたそうです。

小竹さんのすくも作りは４月の藍草の種まきから始まります。腰の高さほどに育つ７月下旬になると手刈りで収穫を行い、刈り取った藍草はビニールハウスで２日間ほど乾燥させ、葉と茎に分け、葉を粉状に揉み、木枠で作った箱の中で水を打って発酵させますが、この時の温度管理がとても重要になるそうです。60度以上を何日持続できるかは混ぜる水の割合で変わるとデータで見えてきたそうです。また均一に発酵させるために週に一度の天地返しを行い、約１００日ですくもが出来上がります。その後さらに20～30日熟成させてから出荷となり、全国の染師の元へ届けられます。染師から「質のいいすくもで、いい色が出ましたよ」と褒められると、とても励みになると目を細めていました。

「青は藍より出でて藍より青し」ということわざは「努力によって修養を高めることができる」という意味もあります。小竹さんにふさわしいことわざだと思いました。染師がうなずくすくもを作り続けるため、小竹さんの挑戦は続いています。

（市民記者　中里聖子）

ようこそ市長室からこんにちは！

先月から猛暑日が続いており、今夏も危険な暑さが予想されます。こまめな水分補給や冷房の適切な使用、無理をしない行動など、日頃から意識して熱中症対策をとっていただきますようお願いいたします。

さて、本市では、次代を担う若者の育成に力を注いでおり、特に生徒・学生の「就業能力の向上」や「就職機会の拡大」に資する支援策を積極的に進めております。

その一環として、全国で初めての取り組みとなった、生徒・学生を対象とした資格試験受験料の全額補助制度を、今年度も継続して実施しております。これは、若者の就業意識を高め、能力の向上を市がバックアップするもので、多くの生徒・学生から好評をいただいております。

さらに今年度からは、こうした取り組みに加え、英語検定の受験料の無料化を新たに実施しております。小学生５級以上、中学生３級以上、高校生２級以上が対象で、児童生徒の英語力と実践的な言語技能の向上、そして学習意欲のさらなる醸成を目的としています。グローバル社会に向けた確かな力を佐野の子どもたちに身につけてほしいという願いを込めております。

また、昨年度に引き続き、ニュージーランド・ファンガレイ市への中学生の派遣事業を実施いたします。今月24日から、本市の中学生20名が現地を訪れ、異文化と触れ合いながら語学や国際理解を深める貴重な経験を重ねてまいります。こうした交流が、将来の国際人としての視野と自信を育むことを期待しております。

今回は、私も現地ファンガレイ市に出向き、子どもたちと一緒に交流を深め、今後も継続して派遣が実施できるよう友好的な関係を築いてまいりたいと思います。

佐野市長
金子　裕

「クリケットのまち佐野」の玄関口

田沼駅の副駅名が「佐野市国際クリケット場」に！

国際クリケット場の最寄り駅「田沼駅」の駅舎が改装され、副駅名「佐野市国際クリケット場」となり、日本で初めてクリケットの名前がついた駅名が誕生しました！

駅の壁や通路に、さのまるとクリケット選手をモチーフに漆喰（しっくい）を使って描かれ、佐野市の地元産業の素晴らしさを感じさせます。

5月下旬、田沼小の児童たちが漆喰についての説明を聞き、日本クリケット協会のメンバーや東武鉄道職員、日本プラスター社員たちと、みんなで壁に漆喰を塗り完成しました。

6月7日、駅舎のお披露目式が行われ、臨時列車も運行されました。

漆喰は、市の特産の石灰石から作る消石灰を原料とし、燃えにくく、季節に合わせて呼吸をするように湿度調整をする効果があるそうです。みんなで力を合わせて誕生した駅舎は、「クリケットのまち佐野」の玄関口として長く愛される駅となることでしょう。

（市民記者　永倉文子）

sanoteens が考案

高速バスラッピングデザインお披露目式

6 月 21 日㈯、ジェイアールバス関東株式会社佐野支店において、高速バスラッピングのお披露目式が行われました。本市とジェイアールバス関東株式会社は包括連携協定を締結し、協働による活動を推進しています。

今回お披露目されたデザインは、本市の魅力向上を目的に活動する市内高校生のプロジェクト「sanoteens」が考案したイラストをベースにしたものとなっています。

このたび作成されたラッピングバスは、佐野新都市バスターミナルから東京駅および新宿駅間を運行し、本市をPR します。

移住者同士の交流会

さの Meets ～ピザ作り体験～

7月12日㈯、第４回移住者交流会「さの Meets ～ピザ作り体験～」が根古屋森林公園で開催されました。

本市では、移住者との交流を図り、移住者同士のつながりや相談ができる関係性づくりを目指して、このような催しを昨年度から開催しています。

今回は、石窯を使ったピザ作り体験をし、焼きたてのピザを食べながら参加者同士で交流を図りました。参加者の皆さんは、緑溢れる自然の中で、モチふわな本格生地を使い、自分たちでオリジナルのトッピングをしたアツアツ焼きたてピザを食べながら、佐野のお気に入りスポットや佐野に来て困ったことなどについて語り合い、楽しいひとときを過ごしました。